

奈良マラソン開幕

奈良マラソン2016は平成28年12月10日、奈良市法蓮佐保山の「ならでんフィールド(奈良市鴻ノ池陸上競技場)」で開幕した。この日は開会式と3kmジョギングを実施。併せてフルマラソンと10km参加者のランナー受け付けが行われた。

大会には、この日の3kmジョギングを合わせて約19,000人のランナーが参加。11日は午前9時にフルマラソン、同9時30分に10kmの号砲が打ち鳴らされる。

奈良マラソンは2016年で7回目。フルマラソン、10kmのランナー受け付けは午前10時から始まり、参加者が次々と来場し、ナンバーカード(ゼッケン)や記念Tシャツを受け取り、本番に備えた。

開会式は午前11時から、競技場南のエキスポ特設ステージで行われ、大会会長の荒井正吾奈良県知事が「走る人も、それを見るのも楽しいのがこの大会。みなさん楽しんでください」とあいさつ。大会副会長の仲川元庸奈良市長、並河健天理市長も歓迎の言葉を述べた。

続いて、大会を盛り上げるスペシャルゲストのバルセロナ五輪の銀メダリスト、有森裕子さんが登壇。招待選手らの紹介の後、全参加選手を代表して平田治さん(Team奈良)が選手宣誓した。エキスポエリアでは県の特産品、スポーツ用品が販売され、全国各地の自慢グルメが軒を連ね、受け付けを終えたランナーらが次々と訪れていた。

午後からは、ならでんフィールドで有森さんのランニングクリニックが行われ、ウォーミングアップの仕方や奈良マラソンのコースに適した上り、下りのランニングフォームなどを熱心に指導した。同2時15分には3kmジョギングコースがスタート。約1400人の小学生以上のランナーや家族連れらが晴天の奈良電力鴻ノ池パーク(鴻ノ池運動公園)内特設コースを駆け抜けた。

開会式

荒井知事は「今年も好天に恵まれ、ボランティアに支えられながら、活気に満ちた大会となりました。走ってよし、また応援も楽しい。2日間を存分に楽しんでください」とあいさつ。

大会副会長を務める奈良・天理両市長もあいさつし、仲川元庸奈良市長は「全国から海外から奈良の鹿の数より多い参加があり、奈良を元気にしてもらっています」と述べ、並河健天理市長は「今年も献身的なボランティアに支えられ、大会を迎えることができました。日本で一番古い道を走ってもらい、日本の原風景を楽しんでほしい」と歓迎した。

バルセロナ五輪メダリストでスペシャルゲストの有森裕子さんも笑顔で登壇し、「今年も来ました。一緒に盛り上げましょう」と元気に呼びかけた。

招待選手の紹介の後、選手宣誓が行われた。



EXPO会場オープン

10日開幕した「奈良マラソン2016」の主会場のならでんフィールドでは、すべての来場者が楽しめるエキスポ会場もオープンした。多彩なグルメブースが集まる「飲食ゾーン」に加え、スポーツ用品などもそろう「物販情報ゾーン」、奈良の魅力や特産品の紹介と販売、協賛企業の出展など約80の企業・団体による特設スペースが終日、盛況だった。

奈良マラソンのロゴマーク入りTシャツなどを販売するマツダ工芸(橿原市)は第1回大会から参加。今年もパーカーやトレーナー、各種タオルなど多彩な商品を販売した。

松田尚起社長は「海外からのお客様も増えている。スタッフ一同、全世界のみなさまをおもてなしの心でお迎えしたい」と話した。



選手宣誓

開会式で男女の招待選手の紹介に続き、前年の第6回大会フルマラソン男子総合優勝の平田治さん(39)が、大会に出場する選手約19,000人を代表して選手宣誓した。

平田さんは「冬の大和路を堪能し、楽しみ、神(かみ)ってる笑顔で無事フィニッシュラインを越えることを誓います」と流行語も織り交ぜ、笑いを誘いながら大会への意気込みを力強く述べた。会場からは大きな拍手がわきあがった。



完走祈願

11日のフルマラソン実施を前に10日、奈良市雑司町の手向山八幡宮(上司延禮宮司)で完走祈願祭が営まれ、出場者約50人が参列した。

NPO法人「奈良元気もんプロジェクト」が武運(スポーツ)の神「弓矢八幡」として信仰される手向山八幡宮の運気をいただこうと毎年企画している。

上司宮司が祝詞を奏上。参列者に、お守りとなるご朱印を手渡した。フルマラソンに出場する生駒市の山本孝さん(56)は「今回で5回目の出場。まずは完走したい」と話していた。



EXPO会場オープン

飲食や物販、協賛企業の発信など、約80のブースが出展されたエキスポ会場は、11日も大盛況。郷土の味が楽しめるブースや、全国から集まったB級グルメのブースに長蛇の列ができた。

特設ステージではゲストが楽しいトークで表彰式を演出、奈良のご当地アイドル「ルシャナ」のミニライブも人気を呼んだ。走り終えたランナーや応援に駆けつけた来場者はそれぞれに見て、聞いて、食べて、体験してと思い思いに大会の一日を楽しんだ。



県庁伐折羅隊

県庁前で躍動感ある演舞を披露したのは、県職員らでつくる「県庁伐折羅(バサラ)隊」の15人。華やかな衣装で迫力の舞を繰り広げ、沿道の見物客のほか、ランナーからも声援や拍手が送られた。

隊員で奈良県西和医療センター職員の宇野博之さん(46)は「ランナーを元気付けようと踊ったが、元気をもらった」と話していた。



天理市商工会

折返し地点では、天理市商工会のぜんざいの振る舞いが人気を集めた。「毎年の楽しみ」との声も多い大会の名物。約25^キを走ったランナーは、湯気の立つぜんざいをほおばると、「おいしい」とほっとしたような笑顔を見せた。

甘い食べ物で体を癒したランナーは、後半の難所「白川越え」を目指して走り出した。



奈良朱雀高等学校和太鼓部

大宮通り沿道では、奈良朱雀高等学校和太鼓部「和太鼓秋篠」が力のこもった演奏を披露。ランナーを元気付けた。

部員25人は、一部は交替なく約1時間演奏を続けた。部長の2年生、中垣沙菜さん(17)は「ランナーから手を振ってもらい疲れが吹き飛んだ。演奏も上出来だった」と満足げ。



マッサージ

奈良県鍼灸(しんきゅう)マッサージ師会(喜多嶋毅会長)は競技場前の専用ブースで主に競技後のランナーを対象に無料で施術して体のケアをサポート。会員と会員外の鍼灸師・マッサージ師・修道整復師、専門学校生、高校生ボランティアの計47人が従事した。

奈良マラソンは第1回目から毎年活動。この日も競技後は来場者で混雑した。同会業務執行理事の泉伸二さんは「競技後にしっかりと体をケアする事が、けがの予防につながる」と話していた。



癒しの鈴

「癒しの鈴」は、握り棒の上部に複数の鈴が付き、巫女(みこ)が打ち鳴らす鈴を思わせる形状。

この鈴を使った応援ポイントは、NPO法人ポルベニルカシハラスポーツクラブによる天理市の白川大橋▽奈良市立都南中学校による奈良市東市小学校付近▽鹿サポーターズクラブによる奈良公園飛火野一など、坂の前後を中心に設定。足の疲れをとってもらおうとコールドスプレーも用意した。

また平城宮跡の朱雀門前では奈良朱雀高校の生徒が、天理市立山の辺幼稚園では園児も加わるなど「癒しの鈴」は沿道のあちらこちらに広がった。

東市小学校付近で都南中学生とともに活動した大西隆さん(NPO法人奈良元気もんプロジェクト)は、「『コロコロという鈴のように走りたい』と話す女性ランナーの声を聞いた。鈴はランナーの足並みに合わせて振るなど、リズムも自由。よいアイデアだと思う」。

そして最後も「癒しの鈴」で締めくり。ならでんフィールド内のゴール手前に、鈴を手にした奈良女子高等学校の生徒が整列し「お帰り!」「あと少し」。鈴を振りながらの懸命の声援を受けて、各ランナーは「すごく癒される感じ。良いと思う」と笑顔で次々にフィニッシュラインを越えた。



ステージ

エキスポ会場で行われたランナーふれあいステージには、大会を盛り上げた個性豊かな仮装ランナーが登場。安田大サーカスの団長安田さんと松井絵里奈さんのインタビューに答え会場を和ませた。

広陵町の看護師奥村英樹さん(37)は漫画「ドラゴンボール」の悪役フリーザのコスプレで10km。全身タイツで、地面に引きずる尻尾は妻の美由紀さん(33)が手に持って仲良くゴールした。「4人の子どもたちを喜ばせたくて」とにっこり。「来年はコスプレで入賞を目指します」と宣言した。

アニメ「千と千尋の神隠し」の登場人物にふんじた男女4人は大和高田のテニス仲間。吉井愛結さん(22)は「初めての奈良マラソン(10^{キロ})でしたが、景色が良くてエンジョイしました」と話した。

